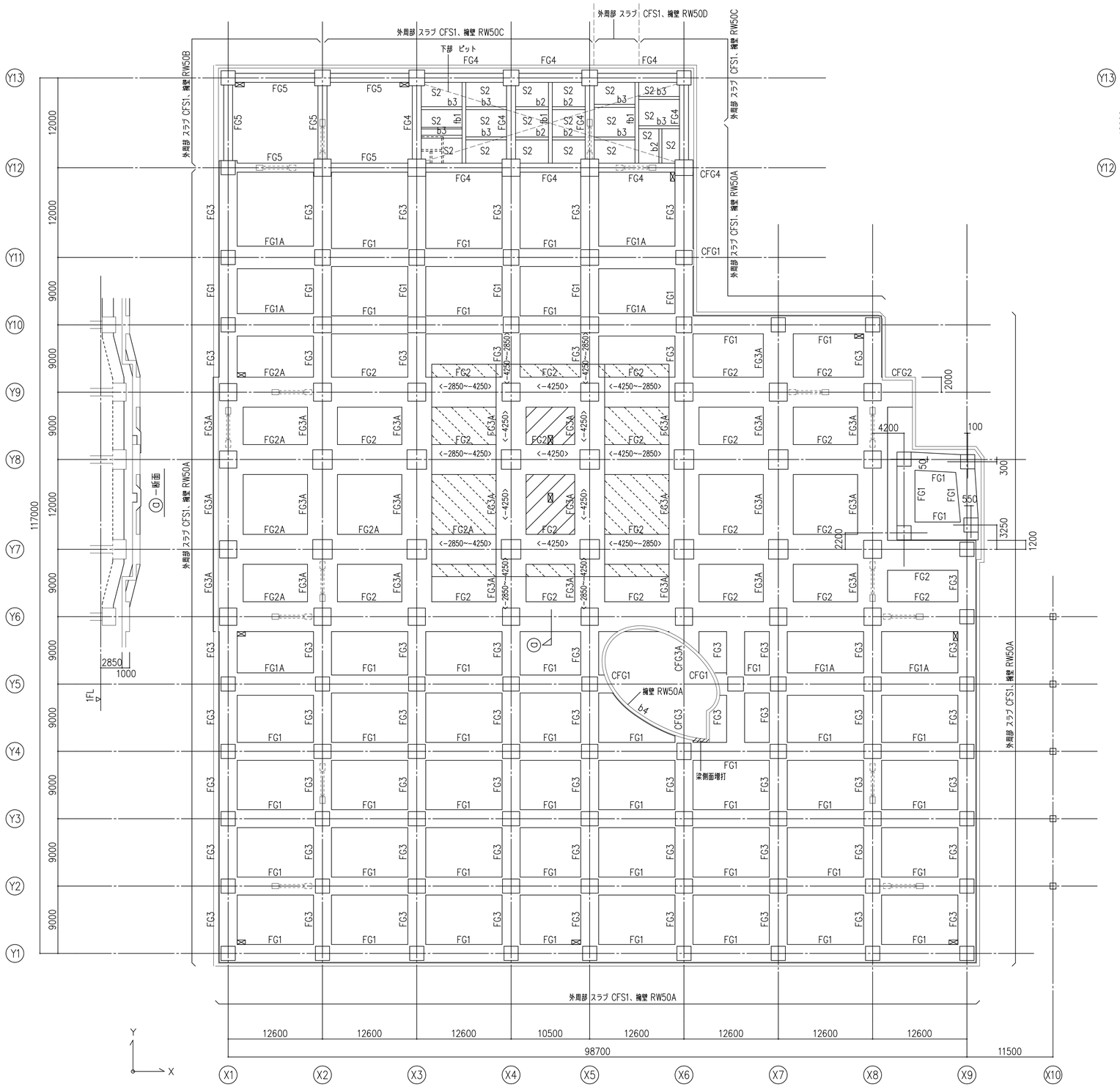
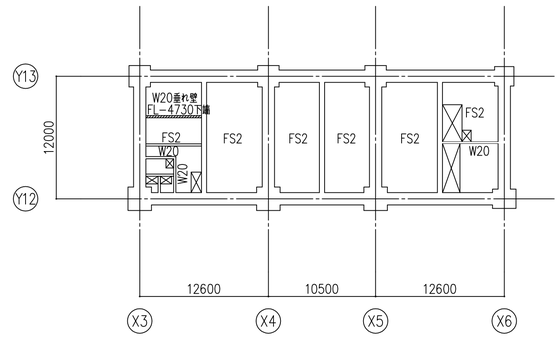




ピット伏図 1:300

共通事項（特記なき限り）

- 底版天端は 1FL−5550（GL−5450）とする。
- 基礎底は GL−6250（T.P−3.65m）とする。

免震ピット伏図 1:300

共通事項（特記なき限り）

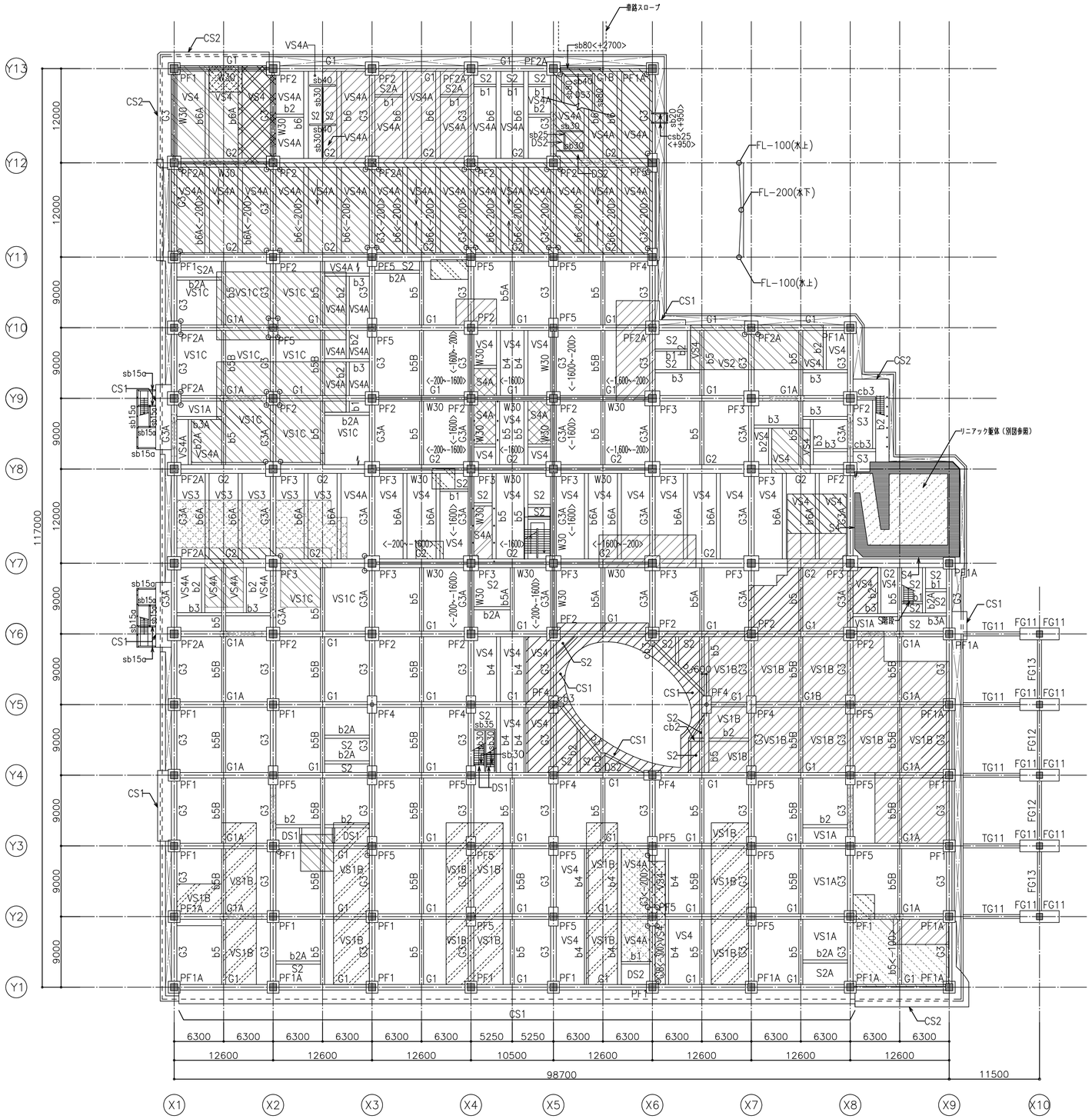
- 設計GL＝T.P＋2.6m とする。
- 底版（スラブ）天端は 1FL−2850（GL−2750）とする。
- 地中梁・小梁天端は 1FL−2850（GL−2750）とする。
- 印は 底版天端 1FL−4250 とする。
- 印は 底版天端 1FL−2850~1FL−4250 とする。

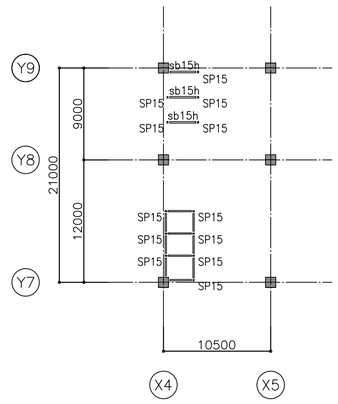
- 底版符号は FS1 とする。
- ＜ ＞内数値は 1FLからの梁天端レベルを示す。

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士 国土交通大臣登録 第293589号
中原 岳夫

兵庫県立淡路医療センター アンギオ室整備工事

参考図	既存竣工図（構造）		最終版	2020.9.14
S−12	免震ピット伏図	A1:1/300 A3:1/600	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所		最終契約版	****.**.**





ＥＶシャフト伏図　1:300

特記無き限り下記による。
・梁符号はsb12hとする。

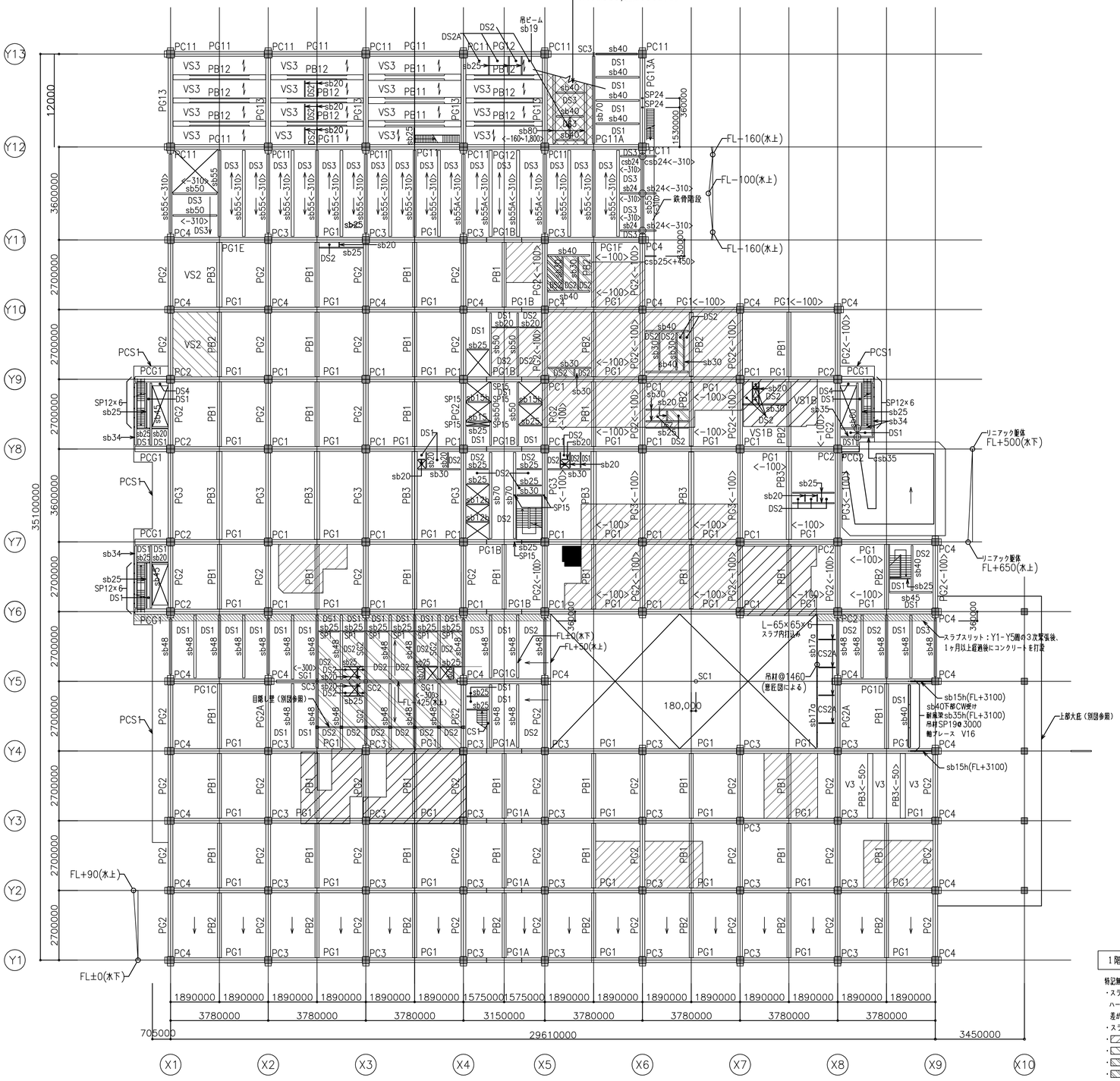
1階床梁伏図　1:300

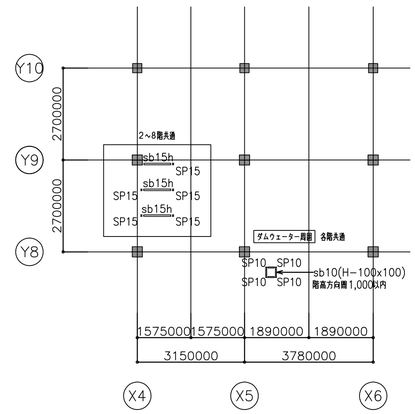
特記無き限り下記による。
・スラブ符号　VS1Aとする。（床版方向←→）
　ハーフPC床版のトップコンクリート天端とスラブ天端レベルに、
　差がある場合はトップコンクリート上部を増打ちとする。
・小梁符号はｂ1とする。
・スラブ天端　FL−10
・大梁天端はFL−200、小梁天端はFL−10とする。
・　内、スラブ・小梁天端　FL−50
・　内、スラブ・小梁天端　FL−60
・　内、スラブ・小梁天端　FL−100
・　内、スラブ・小梁天端　FL−150
・　内、スラブ・小梁天端　FL−200
・　内、スラブ・小梁天端　FL−300
・　内、スラブ・小梁天端　FL−350
・　内、スラブ・小梁天端　FL−500
・　内、スラブ・小梁天端　FL−1300
・　内、スラブ・小梁天端　FL−1600
・　内、スラブ・小梁天端　FL+600
・　内、スラブ・小梁天端　FL+700
・＜　＞内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
・レベル表示のない鉄骨梁天端は、詳細図または豆伏図による。
・設備用スリーブ（250φ×290箇所）の梁貫通補強は建築工事とする。
　梁貫通の補強要領は鉄筋コンクリート配筋規準図による。
・W30は床スラブ受用の立ち上がり壁を示す。（軸組図を参照）
・○印は、免震Bに差筋が必要な箇所を示す。

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

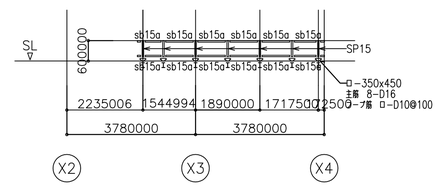
兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S−13	1階床梁伏図　A1:1/300　A3:1/600	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

車路スロープ
スラブ・梁天端は車路勾配による。
スラブはDS3,両側はCS1とする。





1 FL+3,100伏図　1:300



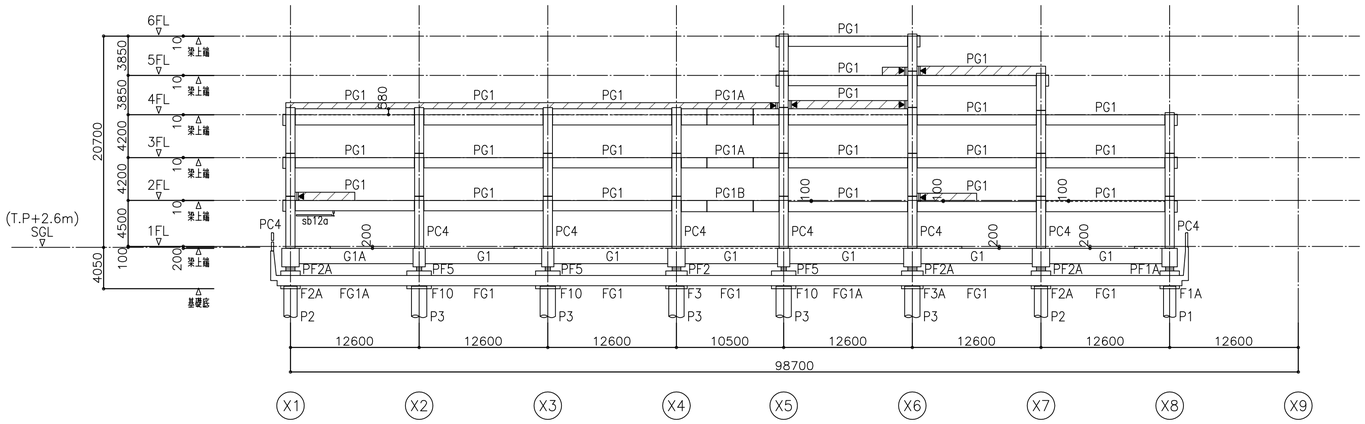
目隠し壁断面図

1階柱壁・2階床梁伏図　1:300

特記無き限り下記による。
- スラブ符号　VS1Aとする。(床版方向 ←→)
  ハーフPC床版のトップコンクリート天端とスラブ天端レベルに、差がある場合はトップコンクリート上部を増打ちとする。
- スラブ天端・梁天端　FL-10
- 内、スラブ・小梁天端　FL-100
- 内、スラブ・小梁天端　FL-200
- 内、スラブ・小梁天端　FL-300
- 内、スラブ・小梁天端　FL-500
- 内、スラブスリット（後施工範囲）を示す。
- < >内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
- レベル表示のない鉄骨梁天端は、詳細図または躯体図による。
- ○印、鉄骨剛接合部を示す。

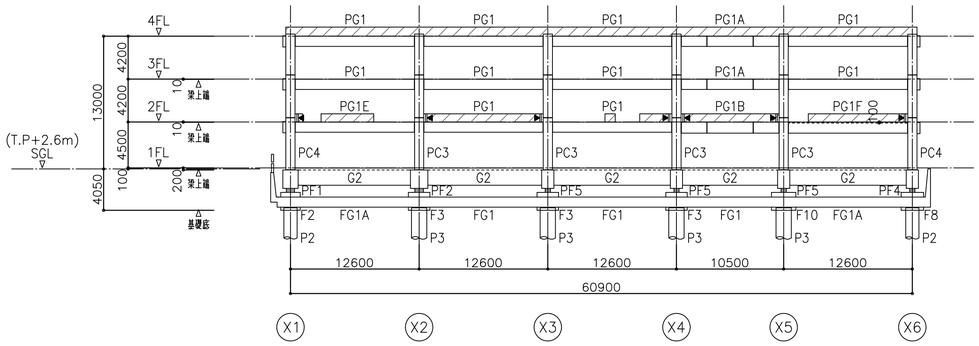
<総括・意匠設計者>
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S-14	2階床梁伏図　A1:1/300 A3:1/600	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**



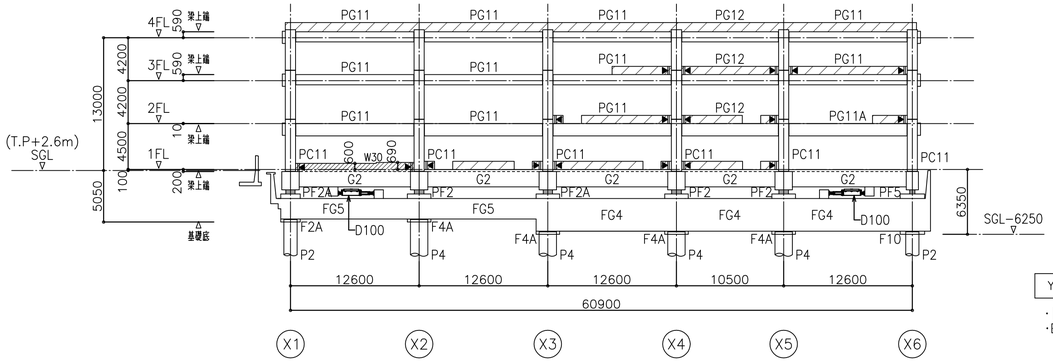
Ｙ１０通り　軸組図　1:300

・◀印は、耐震スリットを示す。
・▨ 印は、立ち上がり壁（外壁 W18、内壁 W15）を示す。



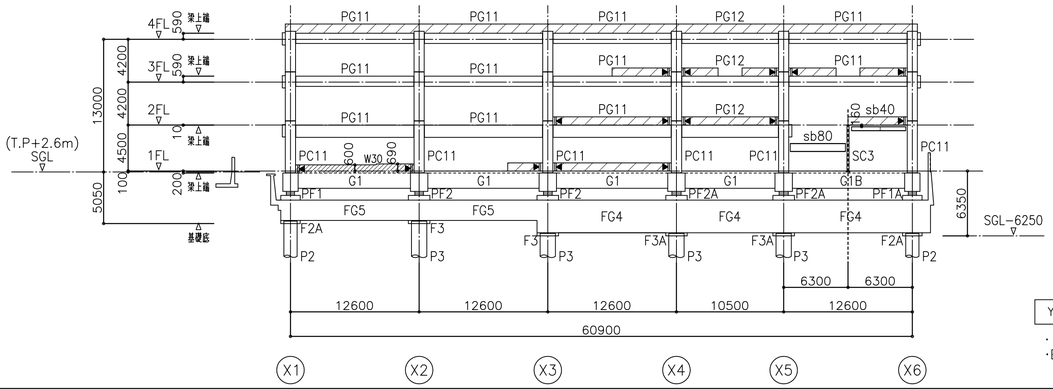
Ｙ１１通り　軸組図　1:300

・◀印は、耐震スリットを示す。
・▨ 印は、立ち上がり壁（外壁 W18、内壁 W15）を示す。



Ｙ１２通り　軸組図　1:300

・◀印は、耐震スリットを示す。
・▨ 印は、立ち上がり壁（外壁 W18、内壁 W15）を示す。



Ｙ１３通り　軸組図　1:300

・◀印は、耐震スリットを示す。
・▨ 印は、立ち上がり壁（外壁 W18、内壁 W15）を示す。

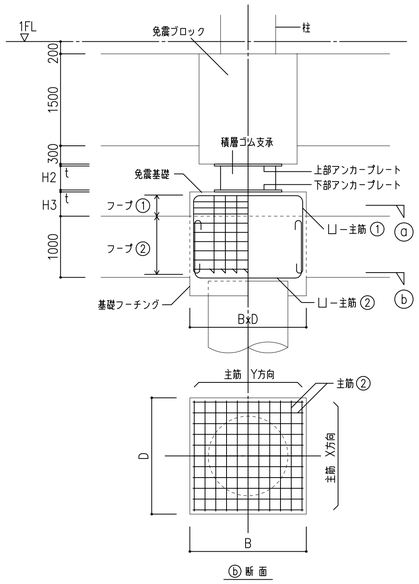
＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S−22	軸組図(4) A1:1/300 A3:1/600	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

免震材料基礎リスト　1:50

鉛プラグ入り積層ゴム支承



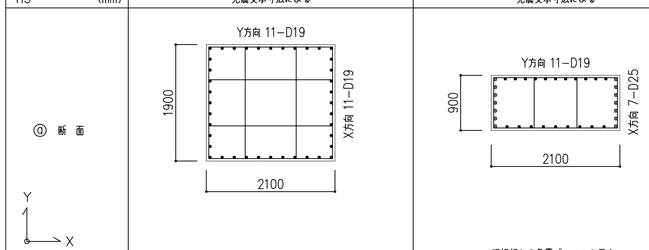
符 号		F1 <F1A>	F2 <F2A>	F3 <F3A>	F4 <F4A>	F5	F6
断 面(BxD) (mm)		1900x1900 【1500x1500】	1900x1900 【1700x1700】	2100x2100	2300x2300	2400x2400	2600x2600
H2 (mm)		免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による
H3 (mm)		免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による
ⓐ 断 面							
免震基礎	主 筋 ①	40−D22<D25>	40−D22	48−D22<D25>	48−D22<D25>	56−D22	56−D22
	フープ ①	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100
	フープ ②	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150
基礎フーチング	主 筋 ②	40−D16 (X・Y方向共 11−D16)	40−D16 (X・Y方向共 11−D16)	48−D16 (X・Y方向共 13−D16)	48−D16 (X・Y方向共 13−D16)	56−D16 (X・Y方向共 15−D16)	56−D16 (X・Y方向共 15−D16)

< >内は SRB：鉛プラグ入り積層ゴム支承の場合を示す。
【 】内は 現場打ちの免震ブロック寸法を示す。

【 】内は 現場打ちの免震ブロック寸法を示す。

< >内は SRB：鉛プラグ入り積層ゴム支承の場合を示す。

< >内は SRB：鉛プラグ入り積層ゴム支承の場合を示す。

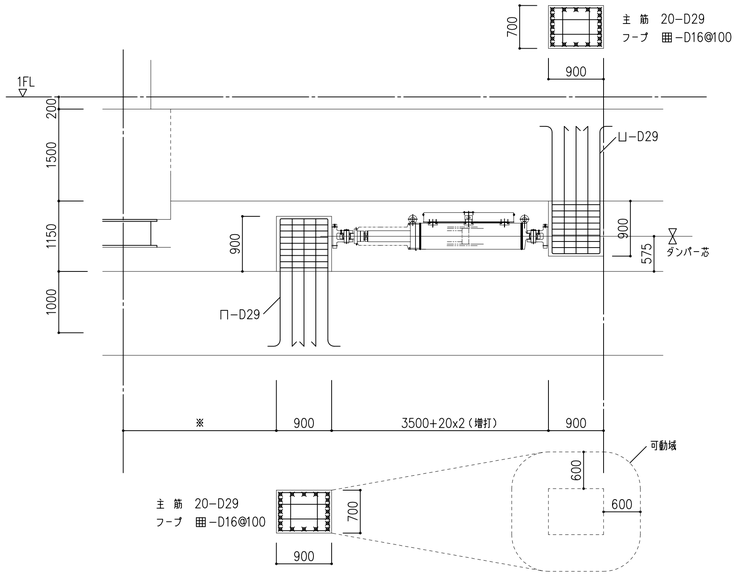
符 号		F7		F8		F9	F10
断 面(BxD) (mm)		1900x2100	900x2100	1900x2200	1000x2200	1900x2300	2100x2400
H2 (mm)		免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による
H3 (mm)		免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による	免震支承寸法による
ⓐ 断 面							
免震基礎	主 筋 ①	40−D19	X方向 7−D25, Y方向 11−D19	40−D19	X方向 7−D25, Y方向 11−D19	40−D19	40−D19
	フープ ①	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100	田−D16@100
	フープ ②	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150	□−D16@150
基礎フーチング	主 筋 ②	40−D16 (X・Y方向共 11−D16)		40−D16 (X・Y方向共 11−D16)		40−D16 (X・Y方向共 11−D16)	48−D16 (X・Y方向共 13−D16)

現場打ちの免震ブロックを示す。

現場打ちの免震ブロックを示す。

オイルダンパー基礎リスト　1:50

D100



<総括・意匠設計者>
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

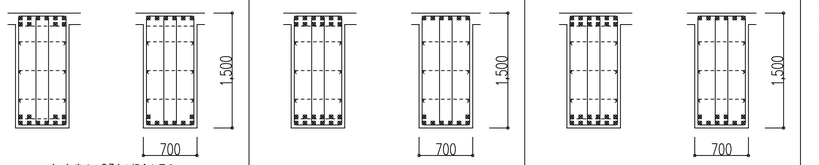
兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S−35	免震基礎リスト　A1: 1/50 A3: 1/100	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

1階大梁リスト 1:40

共通事項（特記なき限り）

- スターラップは 4−D16@200 とする。
- 腹筋は 6−D13，幅止筋は D10@1000以内 とする。
- 主筋は SD390規格品とする。
- スターラップは SD295A規格品とする。

符号	G1・(G3A)		G1A		G1B		G2		G3・(G3B)		
位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	
断面											
上端筋	10−D35	6−D35	12−D35	6−D35	12−D35	6−D35	16−D35	8−D35	8−D35	6−D35	
下端筋	10−D35	8−D35	12−D35	8−D35	12−D35	10−D35	16−D35	10−D35	6−D35	6−D35	
STP	4−D16@200(4−D16@150)		4−D16@150		4−D16@150		6−D16@200				
腹筋											
備考											

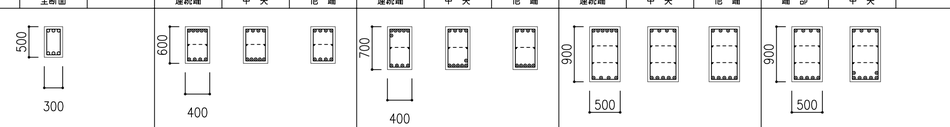
( ) 内は G3Aの場合を示す

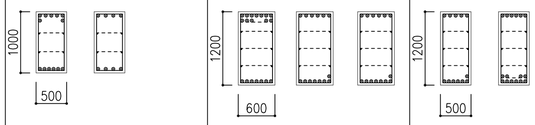
( ) 内は G3Bの場合を示す

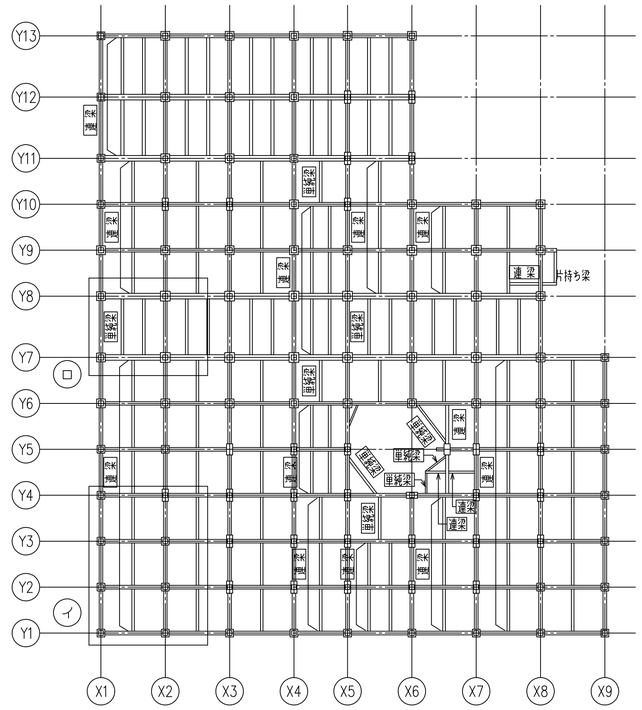
RC小梁リスト 1:50

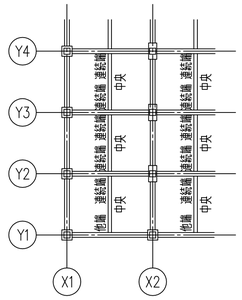
共通事項（特記なき限り）

- スターラップは 2−D13@200 とする。
- 腹筋は 2−D10，幅止筋は D10@1000以内 とする。

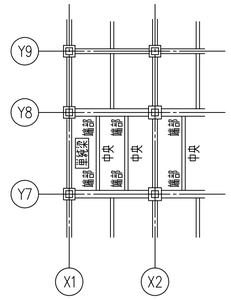
符号	b1	b2			b3			b4			b4A		b5			b5A	
位置	全断面	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	端部	中央	連続端	中央	他端	端部	中央
断面																	
上端筋	3−D22	5−D25	4−D25	4−D25	6−D25	4−D25	4−D25	6−D25	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	9−D25	5−D25	5−D25	5−D25	6−D25
下端筋	3−D22	4−D25	5−D25	4−D25	4−D25	6−D25	5−D25	4−D25	5−D25	5−D25	5−D25	7−D25	6−D25	6−D25	6−D25	7−D25	10−D25
スターラップ	2−D10@200																
腹筋								4−D10					4−D10			4−D10	
備考																	

符号	b5B		b6			b6A		cb1	cb2		cb3		cb5	
位置	連続端	中央	連続端	中央	他端	端部	中央	全断面	元端	自由端	元端	自由端	元端	自由端
断面														
上端筋	8−D25	4−D25	12−D25	6−D25	6−D25	5−D25	6−D25	4−D29	5−D25	4−D25	6−D25	4−D25	9−D25	5−D25
下端筋	6−D25	4−D25	7−D25	8−D25	8−D25	7−D25	10−D25	4−D29	4−D25	4−D25	4−D25	4−D25	6−D25	5−D25
スターラップ														
腹筋	4−D10		6−D10			6−D10								
備考								質疑回答185による						





イ部 連梁



ロ部 単純梁

小梁 各断面位置図

<総括・意匠設計者>
一級建築士 国土交通大臣登録 第293589号
中原 岳夫

兵庫県立淡路医療センター アンギオ室整備工事

参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S−36	1階大梁リスト、小梁リスト A1: 図示 A3: 図示/2	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

床版リスト

共通事項（特記なき限り）

- 巾止筋は　D10@1000以下　とする。
- DS符号は　フラットデッキ（Z12）を使用する。

スパン≦2.9m：h=75mm,t=1.2mm　　2.9m<スパン≦3.5m：h=100,t=1.2mm

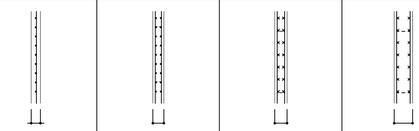
3.5m<スパン：h=100,t=1.6mm

符　号	版　厚	層	短辺方向	長辺方向	備　考
DS1・S1	150	上	D10・D13　@200	D10　@200	モチアミ配筋
		下	D10・D13　@200	D10　@200	
DS2・S2	150	上	D10・D13　@200	D10・D13　@200	モチアミ配筋
		下	D10・D13　@200	D10・D13　@200	
DS2L・S2L	150	上	D13　@150	D13　@200	モチアミ配筋 ヘリポート，軽量コンクリート（γ=17）
		下	D13　@150	D13　@200	
DS3・（S3）	150 （200）	上	D13　@200	D10・D13　@200	モチアミ配筋 （　）内は S3 を示す
		下	D13　@200	D10・D13　@200	
DS4・S4	300	上	D13　@200	D10・D13　@200	モチアミ配筋
		下	D13　@200	D10・D13　@200	
S4A	300	上	D16　@150	D16　@200	EVピット モチアミ配筋
		下	D16　@150	D16　@200	
		上			
		下			
		上			
		下			
CS1	150	上	D13　@150	D10　@200	モチアミ配筋
		下	D10　@150	D10　@200	
CS2	元端　200	上	D13　@150	D10　@200	モチアミ配筋
	先端　150	下	D10　@150	D10　@200	
CS2A	元端　250	上	D13　@100	D10・D13　@200	2階 X8通り側 廊下部分 モチアミ配筋
	先端　150	下	D10　@100	D10・D13　@200	
CS3	元端　300	上	D13　@100	D10・D13　@200	モチアミ配筋
	先端　150	下	D10　@100	D10・D13　@200	

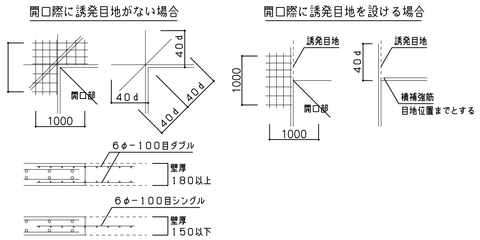
壁　リスト　1:50

共通事項（特記なき限り）

- 巾止筋は　タテヨコ共　D10@1000以下　とする。

符　号		W15	W18	W20	W30
壁　厚（mm）		150	180	200	300
断　面 （鉛直断面）					
縦　筋		D10　@150 シングル	D10　@150 ダブル	D13　@200 ダブル	D13　@200 ダブル
横　筋		D10　@150 シングル	D10　@150 ダブル	D13　@200 ダブル	D13　@200 ダブル
壁開口部補強筋	縦筋	2−D13	4−D13	2−D13	2−D13
	横筋	2−D13	4−D13	2−D13	2−D13
	斜筋	6φ−100目シングル	6φ−100目シングル	2−D13	2−D13
備　考					

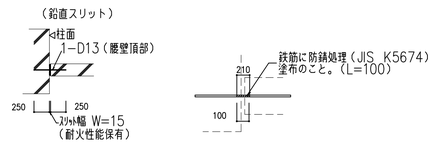
壁開口隅角部補強筋



・開口部補強溶接金網を上記要領で設置すること

耐震スリット要領図

- 耐震スリット設置個所は軸組図による。
- 耐震スリット材は全貫通タイプとする。
- 耐震スリット材は耐火性能を有し、かつ、二次防水処理が施しているものとする。
- スリット厚 t =15mmとし、スリット幅Wは設置壁厚とする。
- 振れ止め筋は下図による。
- 遮音性能はD−50（1級）以上とする。

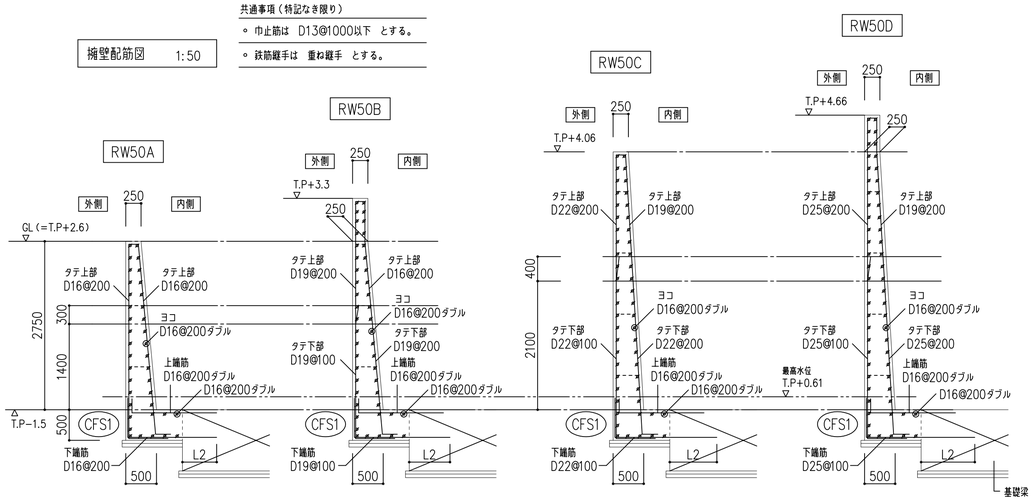


・スリット設置箇所は，柱際を原則とし，
0〜200の範囲で，目地位置に合わせる。

擁壁配筋図　1:50

共通事項（特記なき限り）

- 巾止筋は　D13@1000以下　とする。
- 鉄筋継手は　重ね継手　とする。



<総括・意匠設計者> 一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号 中原　岳夫	兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
	参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
	S−37	床版・壁リスト　A1: 1/50　A3: 1/100	見積版	****.**.**
		安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

共通事項（特記なき限り）

- 鋼材質　SS400　とする。
- ボルト　特記なき限り　高力ボルト（HTB）S10T，メッキボルトは　F8T　アンカーボルトは　SS400　とする。
- 屋外露出となる部材は　溶融亜鉛メッキ　550 g/m² 以上とする。
- 雨水のたまる部材には　水抜き孔を設けること。（20φ@600以内）
- GPLは　母材と同材質とする。
- scb部材は　部材長の1/300の角度でキャンバーを設けること。

鉄骨部材リスト

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2－SPL	備考
SC1	φ－457.2x 19	——	——		剛接合　STKN490
SC2	□－400x400x 16	——	——		剛接合　BCR295
SC3	H－300x300x 10 x 15	——	——		剛接合　SN400B
SC11，SC11A	H－350x350x 12 x 19	——	——		ヘリポート架構 剛接合　SN400B
SG1	H－950x350x 12 x 32	——	——		SN490B
SG2	H－488x300x 11 x 18	——	——		SN400B
SG11	H－600x200x 11 x 17	——	——		ヘリポート架構 剛接合　SN400B
SB11	H－600x200x 11 x 17	——	——		ヘリポート架構 剛接合　SN400B
sb15	H－150x 75x 5 x 7	2－M16	PL－9		
sb20・sb20c	H－200x100x 5.5 x 8	2－M16	PL－6		sb20cは C.PL－9 付
csb20	H－200x100x 5.5 x 8	——	——		剛接合
sb25	H－250x125x 6 x 9	2－M20	PL－9		
sb30・sb30c	H－300x150x 6.5 x 9	2－M20	PL－9		sb30cは C.PL－9 付
csb30	H－300x150x 6.5 x 9	——	——		剛接合
csb35・sb35	H－350x175x 7 x 11	3－M20	PL－9		csb35は　剛接合
sb35A	BH－450~350x175x 9 x 12	3－M20	PL－9		ヘリポート架構 csb45Aとの接合端のみ
sb40	H－400x200x 8 x 13	4－M20	PL－9		
csb45・sb45	H－450x200x 9 x 14	4－M20	PL－9		csb45は　剛接合
csb45A	BH－600~450x200x 9 x 16	——	——		ヘリポート架構 SC11柱端部のみ
sb50	H－500x200x 10 x 16	4－M20	PL－9		
sb60	H－600x200x 11 x 17	5－M20	PL－9		
sb14・sb14h	H－148x100x 6 x 9	2－M16	PL－6		sb14hは　ヨコ使い
csb19・sb19	H－194x150x 6 x 9	2－M20	PL－6		csb19は　剛接合
csb24・sb24	H－244x175x 7 x 11	2－M20	PL－6		csb24は　剛接合
sb29	H－294x200x 8 x 12	3－M20	PL－9		
sb34	H－340x250x 9 x 14	3－M20	PL－9		
sb39	H－390x300x 10 x 16	4－M20	PL－9	PL－9	二面せん断
sb44	H－440x300x 11 x 18	4－M20	PL－12	PL－9	二面せん断
sb48	H－488x300x 11 x 18	5－M20	PL－12	PL－9	二面せん断
sb55	BH－550x350x 12 x 28	5－M22	PL－12	PL－9	二面せん断　SM490A
sb55A	BH－550x400x 12 x 28	5－M22	PL－12	PL－9	二面せん断　SM490A
sb58	H－588x300x 12 x 20	5－M20	PL－12	PL－9	二面せん断
sb60A	SH－600x300x 12 x 25	5－M22	PL－12	PL－9	二面せん断　SM490A
sb70	H－700x300x 13 x 24	6－M20	PL－12	PL－9	二面せん断
sb80	H－800x300x 14 x 26	6－M20	PL－16	PL－9	二面せん断
sb10a	H－100x100x 6 x 8	2－M16	PL－6		2階厨房下　折板受け
sb12a	H－125x125x6.5x 9	2－M16	PL－9		
sb15a・sb15h	H－150x150x 7 x 10	2－M20	PL－6		sb15hは　ヨコ使い
csb15a	H－150x150x 7 x 10	——	——		剛接合
sb17a	H－175x175x7.5x 11	2－M20	PL－9		
sb25a	H－250x250x 9 x 14	3－M20	PL－9		太陽光パネル架台受け A.B　4－M20

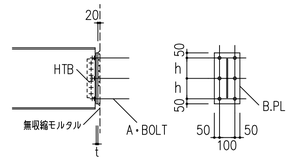
符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2－SPL	備考
sP1	φ－101.6x5.0	2－M16	PL－9		リハビリテラス 廊下 STK400
sP10	H－100x100x 6 x 8	2－M16	PL－9		2階厨房下　折板受け
sP12	H－125x125x6.5x 9	2－M16	PL－9		
sP15	H－150x150x 7 x 10	2－M20	PL－9		
sP19	H－194x150x 6 x 9	——	——		
sP20	H－200x200x 8 x 12	4－M20	PL－9		
sP25	H－250x250x 9 x 14	4－M20	PL－9		
V1	2[－125x 65x 6 x 8	8－M20	PL－16		
V2	2[－150x 75x6.5x 10	6－M20	PL－16		
V16	ターンバックルブレース　1－M16	1－M16	PL－9		SNR400B
V20	ターンバックルブレース　1－M20	1－M20	PL－9		SNR400B
V65	L－65x 65x 6	5－M16	PL－9		
HV65	L－65x 65x 6	3－M16	PL－9		
t10	[－100x 50x 5 x7.5	2－M16	PL－6		
t12・t12h	[－125x 65x 6 x 8	2－M20	PL－9		t12hは　ヨコ使い
t15	[－150x 75x6.5x 10	2－M20	PL－9		
t25	[－250x 90x 9x 13	2－M20	PL－9		

鉄骨部材コンクリートアンカーリスト

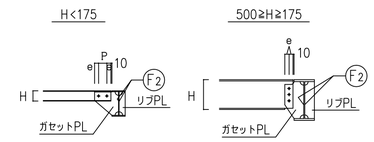
鉄骨小梁・間柱　各共通事項

- 鋼材質　SS400　とする。
- アンカーボルトは　30d，二重ナット締メ　とする。

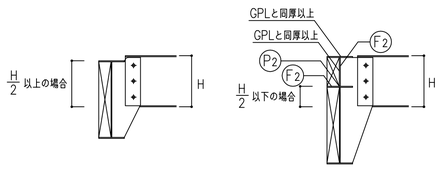
接合ボルト（HTB）	B.PL	A・BOLT 径	A・BOLT 本数	標準間隔 h
2－M16	PL－19	M16	4	150
2－M20	PL－19	M20	4	150
3－M20	PL－22	M20	4	200
4－M20	PL－22	M20	6	150
5－M20	PL－25	M20	6	200
6－M20	PL－25	M22	8	200
5－M22	PL－28	M24	8	150
	PL－28	M27	6	200



小梁継手要領図（リブプレートは　GPLと同材質・同厚とする）

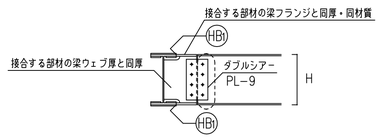


・ガセットプレート形状については座屈止メ要領を考慮して定める。



・大梁下端より小梁下端が下に来る場合も上記に準ずる。

	M16	M20	M22
P	60	60	70
e	40	40	40

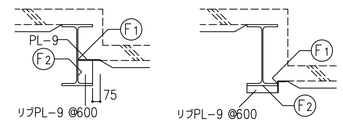


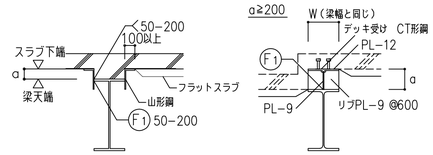
大梁継手と干渉する場合は、適切な位置に継手を変更する
止むを得ず上図のディテールを用いる場合には、監督員の承諾を受けること

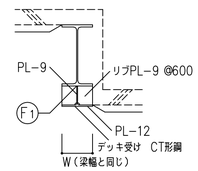
梁段差かさ上げ材要領

スラブ下端と梁天端との段差　a	山形鋼
a≦75	L－100x100x7
75<a≦125	L－150x150x12
125<a≦175	L－200x200x15
175≦ a	BL－（a+25）x100x12 （R－12の曲げ加工）

a>350のときは係員の指示による







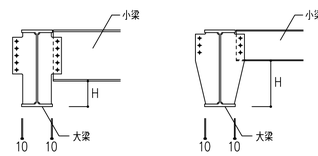
大梁座屈止め要領図

特記なき限り

- 大梁と小梁の取合いは　A－TYPE　とする。

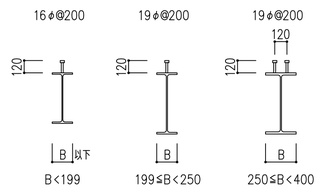
A－TYPE

(1) H<300の場合　　(2) 300≦H≦500の場合



梁上端スタッドボルト要領（大梁・小梁）

特記外　1.コンクリート床を支持する梁上共通



＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S－38	鉄骨部材リスト　A1: 1/30　A3: 1/60	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

スパンクリート合成床工事仕様書

1. 使用材料

1−A スパンクリート厚
□85 ▣100 ▣120 □135 ▣150 ▣175 □200 □250 □265 □300

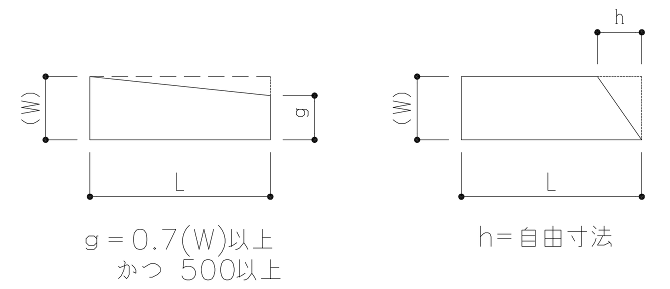
1−B コンクリート強度
設計基準強度は40N/mm²とする。

1−C PC鋼より線
下面からのかぶりは35mm以上とする。

1−D 耐火性能
2時間（建告第1399号第3による）

1−E 部材制度
製作制度：厚 +6mm,−4mm　幅 +4mm,−6mm　長 ±8mm
加工制度：加工サイズに対する許容値 ±5mm
　　　　　加工位置に対する許容値 ±10mm
　　　　　幅切り材の幅に対する許容値 +4mm,−8mm

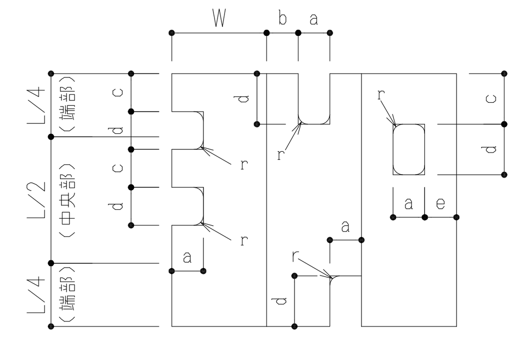
1−F 加工制限
加工制限 ： 原則として図示の範囲で工場にて加工



g = 0.7(W)以上
かつ 500以上

h=自由寸法

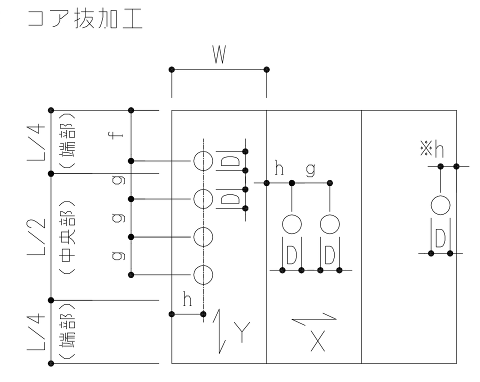
A 切欠加工



	許容値
L	L ≦
W	500 ≦ W
a	a ≦ W/5（中央部） a ≦ W/3（端　部）
b	b≧1.5dかつ100
c	c ≧ 1.5a
d	Σd ≦ L/4
e	e≧1.5dかつ200
r	r=55程度

(mm)

B コア抜加工



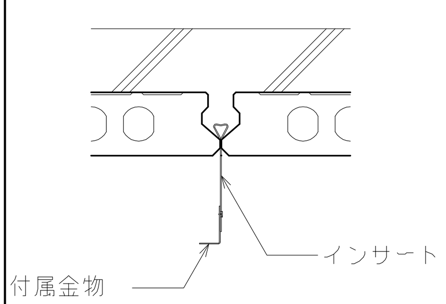
	許容値
f	f≧1.5dかつ100
g	g ≧ 2D
h	h≧1.5Dかつ100 ※ h≦1.5Dかつ100 の場合Ⅰ部を切欠く
X	ΣDorΣD+Ⅰ≦a
Y	ΣD ≦ L/4

(mm)

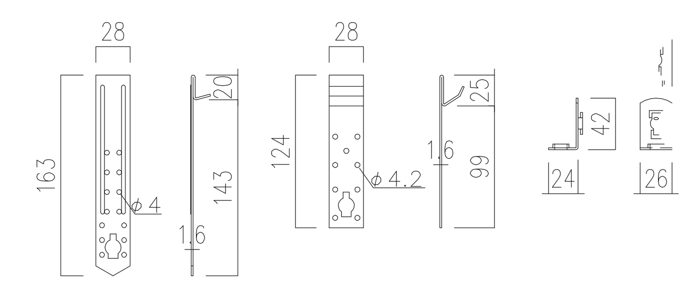
貫通穴径 ： φ20,φ60,φ80,φ100,φ125,φ150,φ180,φ200,φ250
（但し、φ20の場合PC鋼線を切断できない為位置が制限されます。）

注　意 ： 設計条件等により上記の加工制限を満足出来ない場合がありますので、あらかじめご相談下さい。
現場にて穴あけ施工する際には、必ずダイヤモンドコアカッターをご使用下さい。
やむをえずハンマードリルによって穿孔する場合は、PC鋼線をさけた位置に穿孔してください。

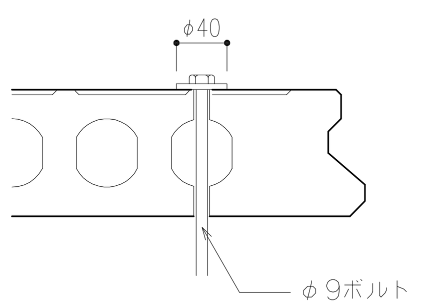
1−G 天井インサート



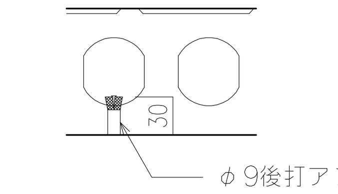
天井吊インサート金物　　付属金物



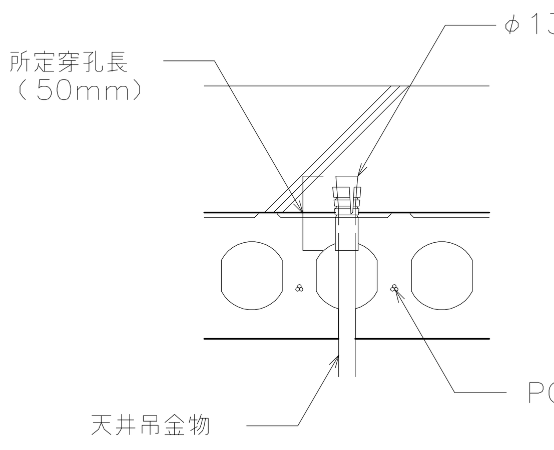
許容静荷重	1.0kN/本



引抜き耐力	11.8kN/本
（長期安全耐力	3.9kN/本）



引抜き耐力	9.8kN/本
（長期安全耐力	3.2kN/本）

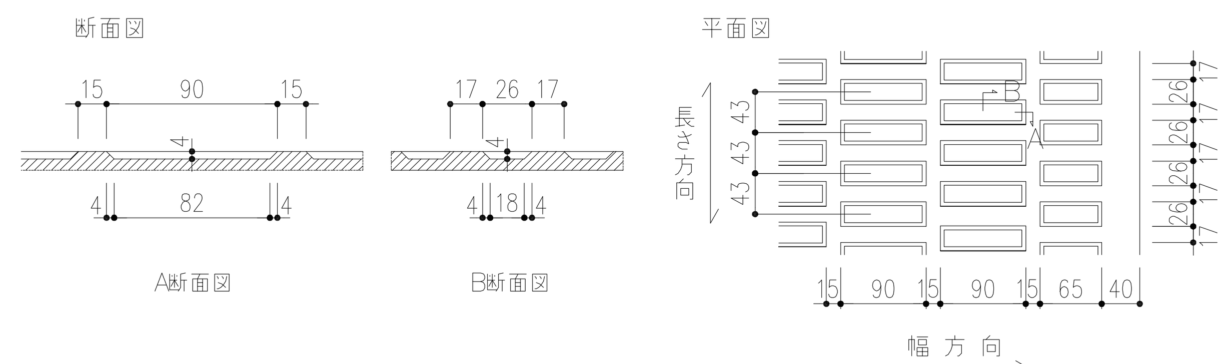


引抜き耐力	25.5kN/本
（長期安全耐力	8.5kN/本）

注意：現場にて穴あけ施工する際には、必ずダイヤンドコアカッターをご使用ください。
やむをえずハンマードリルによって穿孔する場合は、空洞部又は、PC鋼線をさけた位置に穿孔してください。

1−H 表・裏面状態

表面状態：下図の形状・寸法のシャーコネクターを設ける。

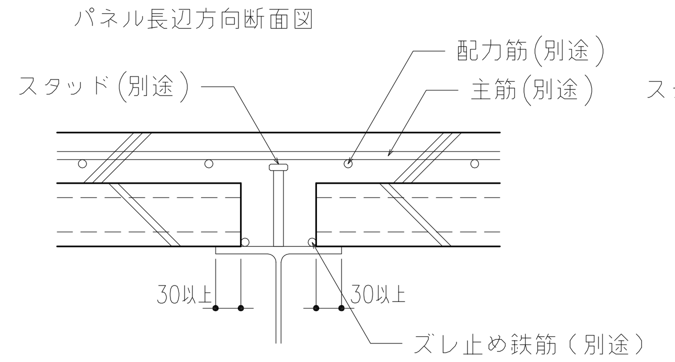


裏面状態：コンクリートブロック程度の粗面。吸水性有り。

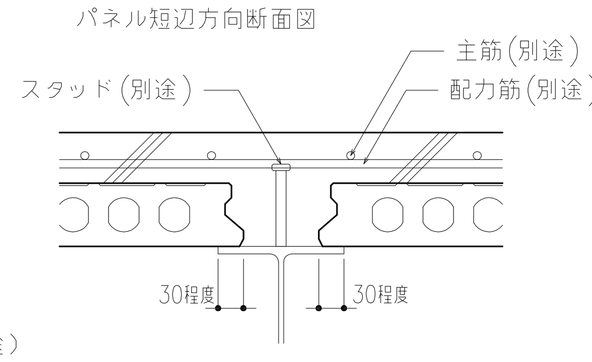
2. 標準納まり

2−A S造

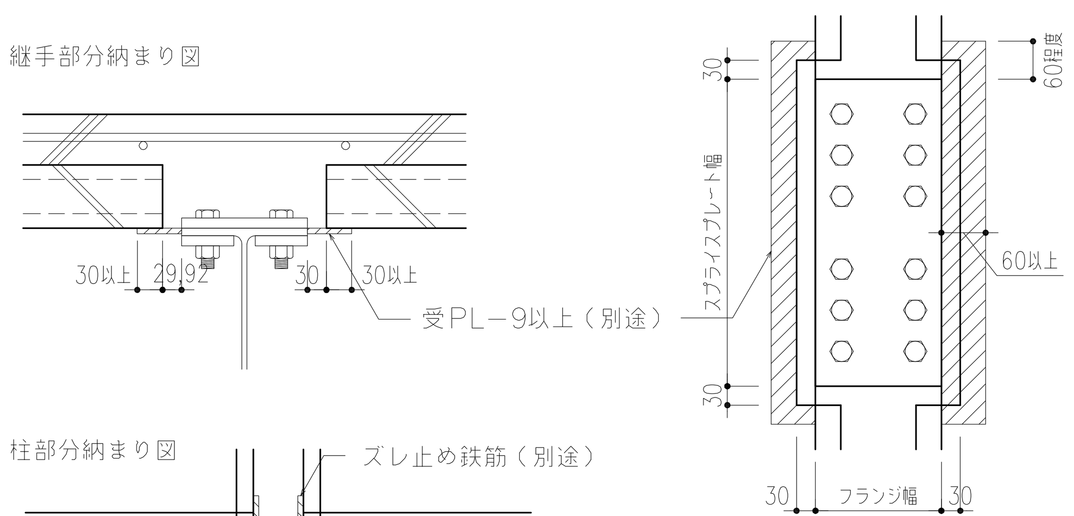
パネル長辺方向断面図



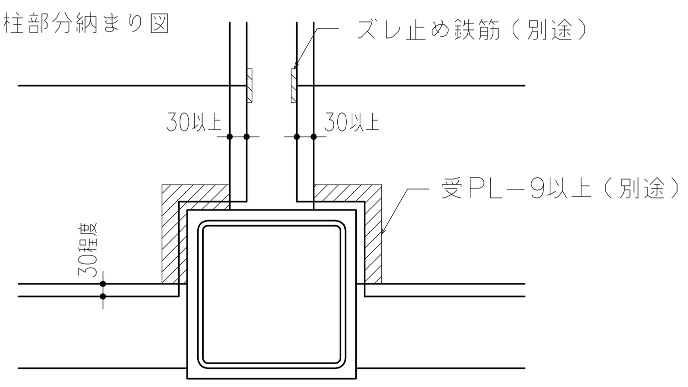
パネル短辺方向断面図



継手部分納まり図

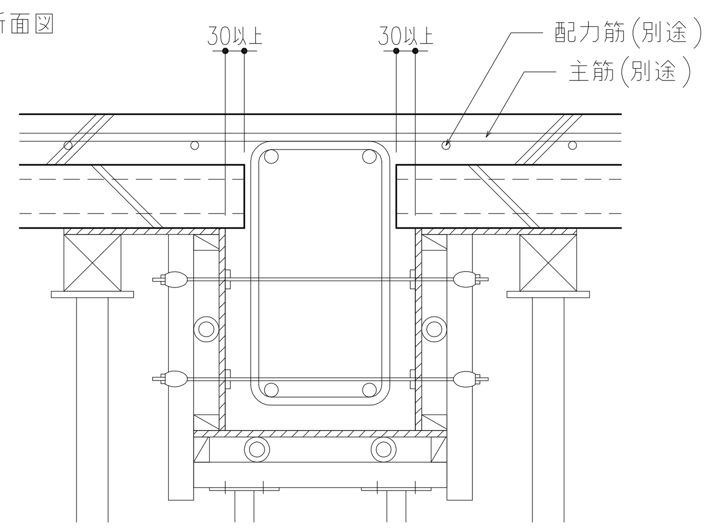


柱部分納まり図

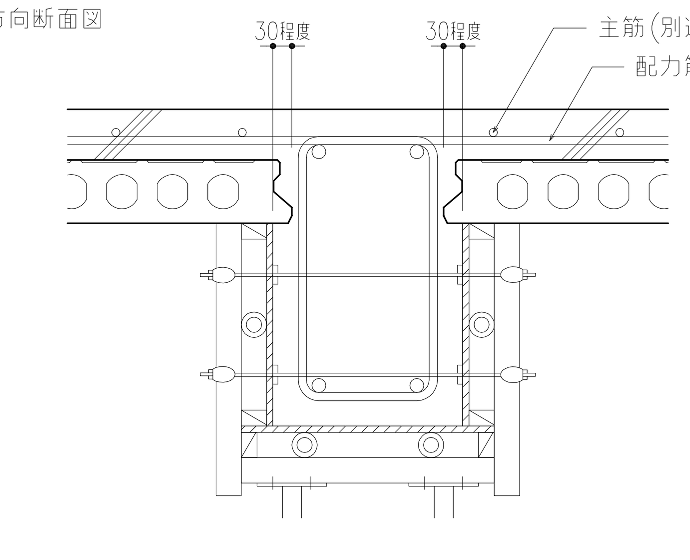


2−B RC造

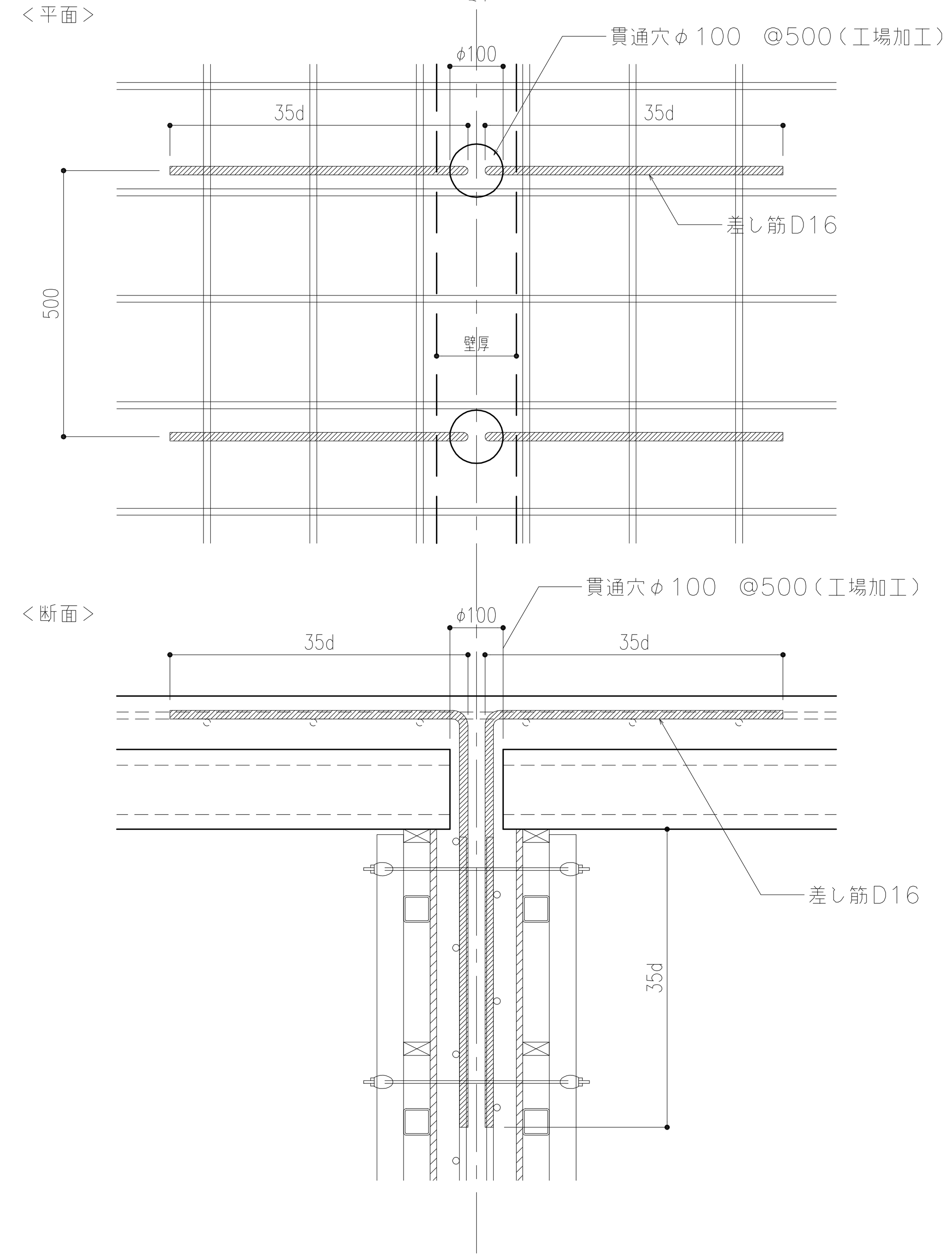
パネル長辺方向断面図



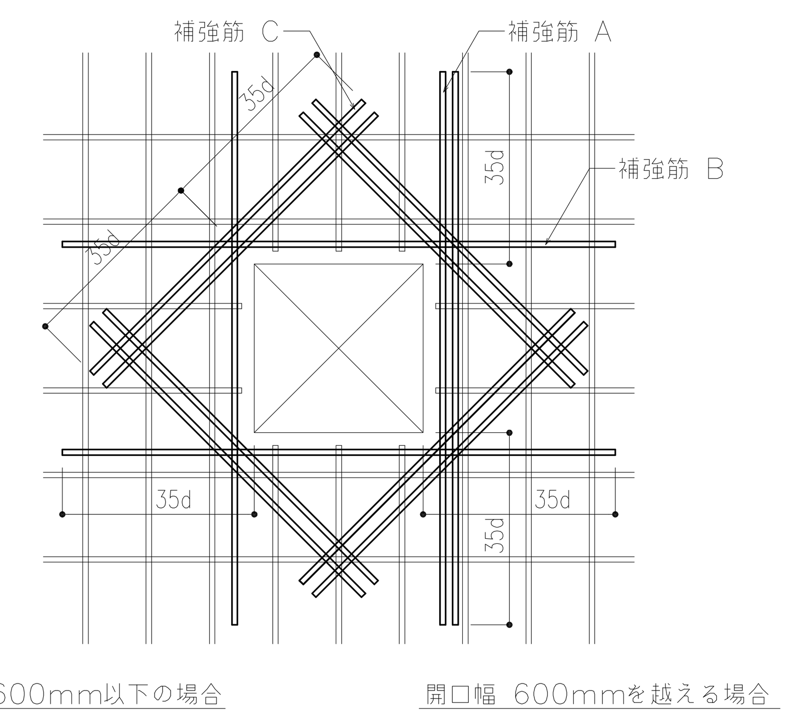
パネル短辺方向断面図



雑壁（RC）納まり詳細図



場所打ちコンクリート部　開口補強要領



開口幅 600mm以下の場合
補強筋 A,B：スラブ筋と同径
　　　　　　開口により切断される
　　　　　　鉄筋と同本数
補強筋 C ：※2−D13

開口幅 600mmを越える場合
補強筋 A,B：D13
　　　　　　開口により切断される
　　　　　　鉄筋と同本数
補強筋 C ：2−D13

3. 施工

3−A 荷降ろし・仮置き

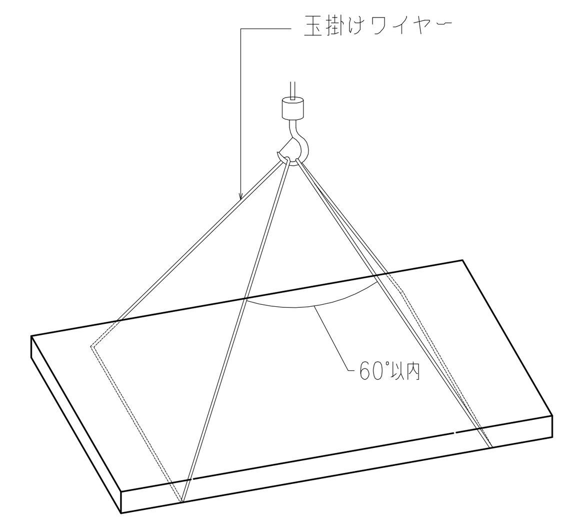
1) 部材の荷降ろしは、玉掛けワイヤーもしくはナイロンスリングで大まわし方式とし、2本吊で行う。その際、荷姿における部材両端のリン木位置より外側にワイヤーを掛けて、水平を保った状態で吊る。
ワイヤー角度は60°以内に保つこと。吊込み枚数は、重機能力に応じて現場で対応する。
他、5mを越える長尺部材については最大3枚までとする。
吊代のとれない場合は下図の様な治具を使用して下さい。

2) 部材の積置きは取付重機の作業半径を考慮し、平坦な場所に、取付順序に荷取り出来る様に置く。

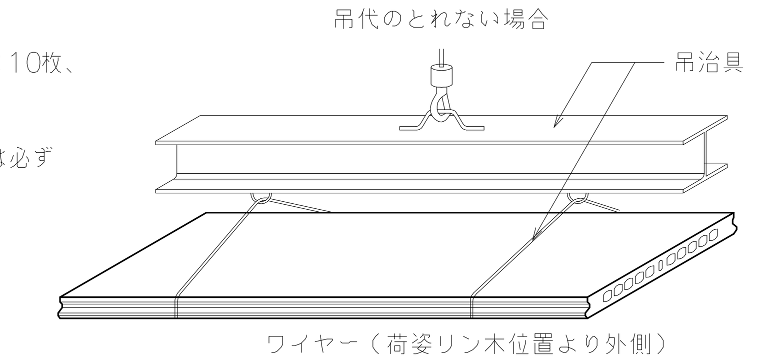
3) 積置きは部材が直接地盤面に接しないように、角材を長さ方向の端部より200〜500mm以内の所に置いて積み重ねる。

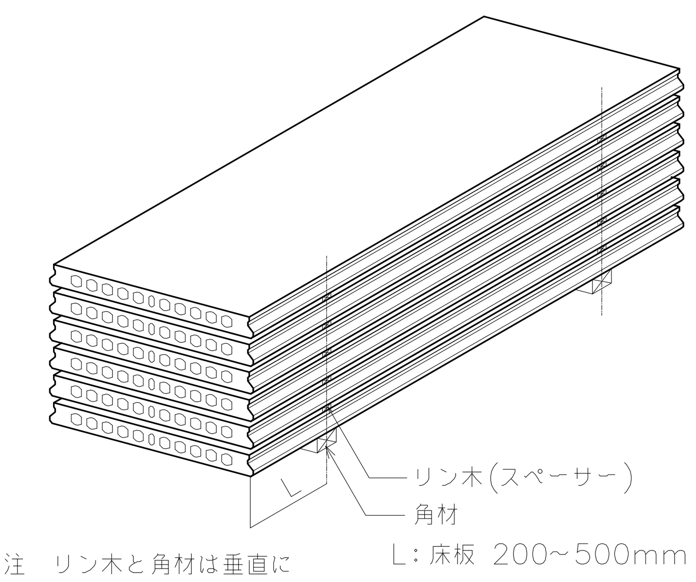
4) 積み重ねの限度は長さ5m以下では10枚、6m以上では7枚までとする。

5) リン木（スペーサー）および角材は必ず同じ位置に垂直にそろえる。



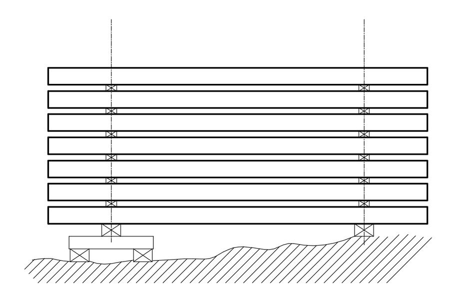
吊代のとれない場合





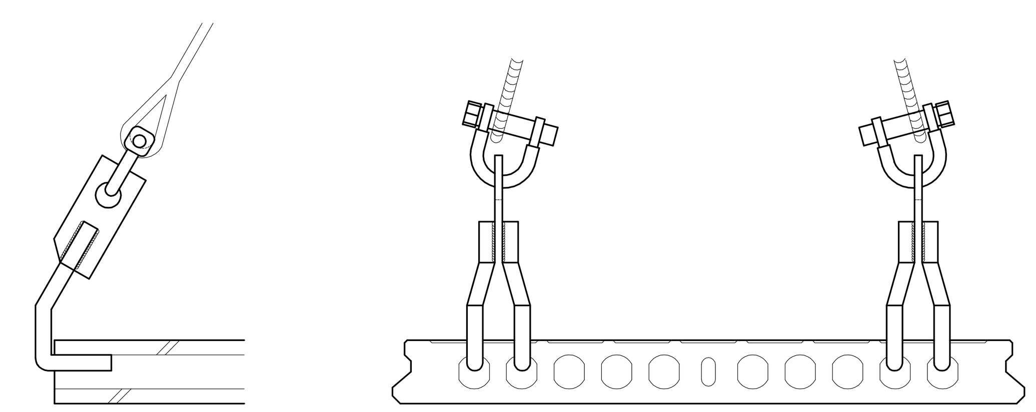
L：床板 200〜500mm

注　リン木と角材は垂直にそろえて下さい。



注　地盤が悪い時は、角材etcにてかさ上げし、スパンクリート裏面が地盤に接しないように水平に保持して下さい。

まくばり時



3−B 場所打ちコンクリート

配筋工事 ： 日本建築学会『鉄筋コンクリート構造計算基準・同解説』
同『建築工事標準仕様書・JASS5』に準じて行う。

主筋　スパンクリート長手方向に平行な配筋
配力筋　スパンクリート長手方向に直交な配筋

コンクリート打設工事 ： 日本建築学会『建築工事標準仕様書・JASS5』による。

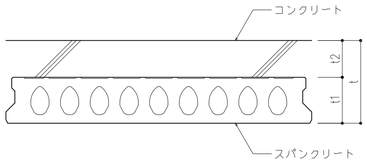
場所打ちコンクリート打設時の留意点
1）場所打ちコンクリート打設時前に、合成床用スパンクリート表面の有害なゴミ、水分を除去する。
2）小口目地は、梁と床板の連結の役目を果たす為、コンクリート打設の時充分にコンクリートを詰める事。
3）設計条件により支保工を必要とする場合があります。
4）場所打ちコンクリートは、設計基準強度Fc=21N/mm²以上、スランプ15cm以下とすることが望ましい。
5）作業時の重量は、1.50kN/m²以下とする。（コンクリート重量は除く）
6）場所打ちコンクリートの沈下及び沈みひび割れが予想されるパネル端部や目地部は、打ち上がり後検査し、沈下及び沈みひび割れの発生個所はタンピングを行う等の処置を施す。
7）養生は、日本建築学会『建築工事標準仕様書・JASS5』による他、打ち込み終了直後からセメントの水和及びコンクリートの硬化が充分に進行するまでの間、急激な乾燥、過度の高温又は低温の影響、急激な温度低下、振動及び外力の影響を受けない様に養生しなければならない。

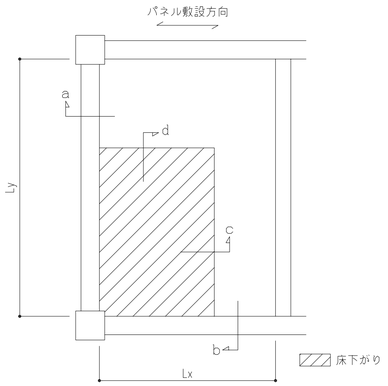
<総括・意匠設計者> 一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号 中原　岳夫	兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
	参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
	S−47	スパンクリート合成床工事仕様書	見積版	****.**.**
		安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

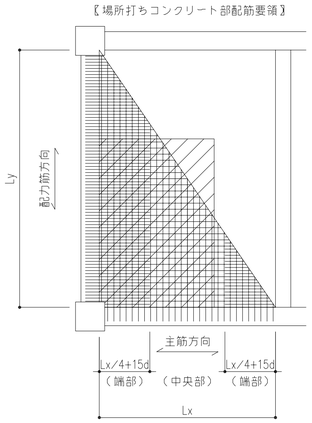
スラブリスト

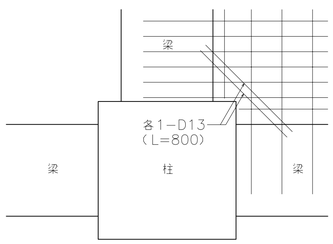
スラブ符号	t1	t2		総厚 t	短辺方向（主筋）		長辺方向（配力筋）	サポート位置
		構造厚	増打厚		端部	中央部	全断面	
VS1A	150	100	20	270	D13@200	D13@200	D10·D13@200	1F：端部、2F～：無
VS1B	150	100	20	270	D10·D13@100	D13@200	D10·D13@200	1F：端部、2F～：無
VS1C	150	100	20	270	D13@100	D13@200	D10·D13@200	端部・中央部
VS2	175	100	20	295	D13@100	D13@200	D10·D13@200	1F：端部、2F～：無
VS3	120	100	20	240	D13@150	D13@150	D10·D13@200	1F：端部、2F～：無
VS3A	120	100	20	240	D10·D13@200	D10·D13@200	D10·D13@200	無
VS4	100	100	20	220	D10·D13@200	D10·D13@200	D10·D13@200	端部
VS4A	100	100	20	220	D13@200	D13@200	D10·D13@200	端部
PCS1	PC納まり詳細図（4）による							

1. ※2F～のVS1Aに90mmのレベル調整用コンクリートを打設する場合は、後打ちとする。（c断面図参照）
2. 端部サポート位置は梁際より0.5mの位置とする。
3. SLから上部10mmは増打ちとする。

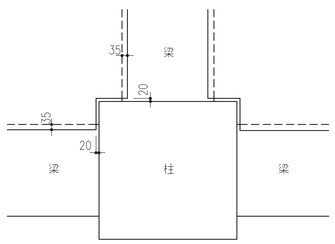




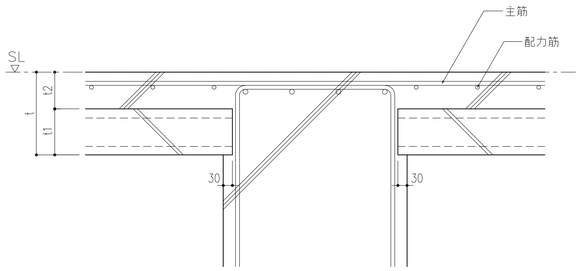




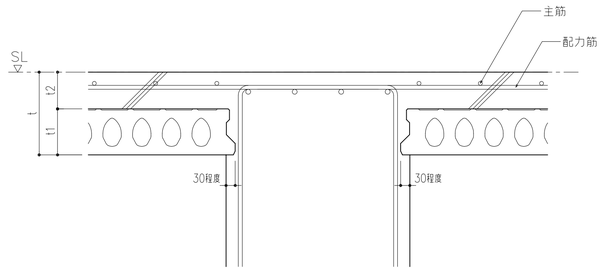
柱周囲補強筋要領



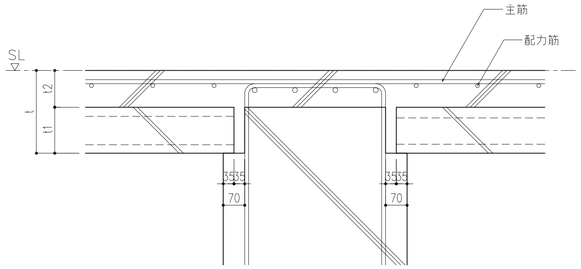
柱部詳細図



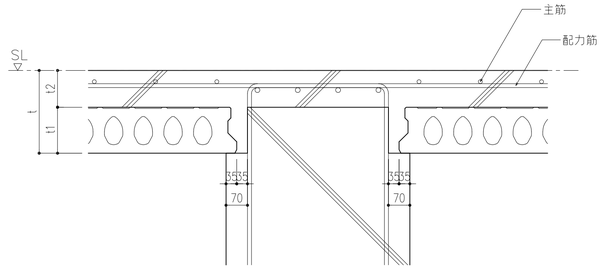
RC梁　a断面図



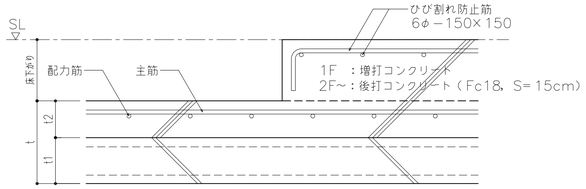
RC梁　b断面図



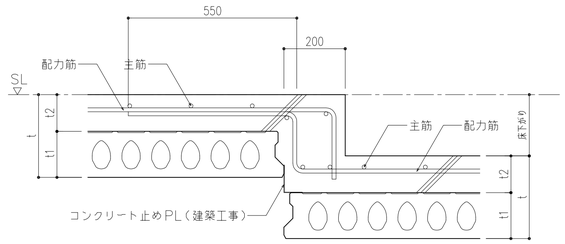
PC梁　a断面図



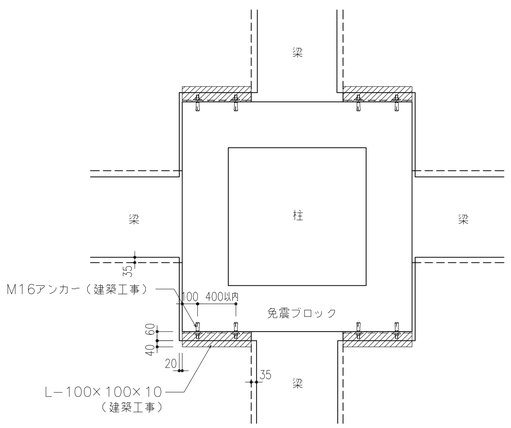
PC梁　b断面図



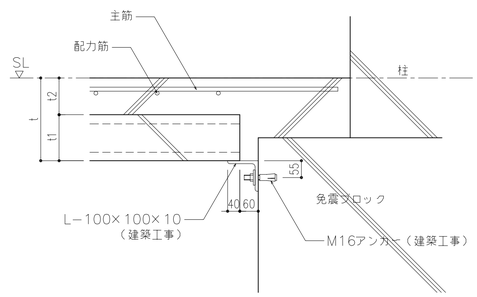
c断面図



d断面図



免震ブロック部詳細図



免震ブロック部断面図

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

参考図	既存竣工図（構造）	最終版	2020.9.14
S−48	スパンクリート合成床リスト・詳細図	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**